

## 令和 3 年度市民・農業者アンケートの結果概要

# 1 調査の概要

- 市民の食料や食育、農業、交流に関する意識や取り組み状況等を把握し、新たな計画を策定するための基礎資料とすることを目的として、下記の3種類のアンケート調査を実施しました。

	一般市民アンケート	農業者アンケート	小中高生アンケート
調査地域	安城市全域		
調査対象	18歳以上の市民	市内で農業を営む a) 認定農業者及び b) 耕作者	市内小学校、中学校、高等学校の児童・生徒
標本サイズ・抽出方法	住民基本台帳より2,000人を無作為抽出	a : 市所有名簿から全数(130人)、 b : 農地台帳から耕作面積が1000㎡以上の人を抽出し、その中から無作為に870人を抽出 計 : 1,000人	5小学校5年生425人 8中学校2年生369人 2高等学校2年生391人 計 : 1,185人
調査方法	郵送配布・郵送回収及びWeb調査	郵送配布・郵送回収	学校での配布・回収
調査期間	令和4年2月8日～2月28日		
有効回収数(有効回収率)	850(42.5%) (紙:679、Web:171)	530(53.0%) (a:76(58.5%)、b:454(52.2%))	1,185(100.0%) (小:425、中:369、高:391)
主な調査項目	<p>&lt;全46問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食料・食生活について <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活で気になる点</li> <li>・朝食の摂取状況</li> <li>・一週間の食生活</li> <li>・共食の状況</li> <li>・栄養バランスへの配慮</li> <li>・食育への関心</li> <li>・産直市等の利用頻度</li> <li>・地産地消の認知度</li> <li>・市の特産品の認知度</li> <li>・食育の取組の認知度</li> <li>・郷土料理への関心度</li> <li>・郷土料理の認知度</li> <li>・食品の安全性の評価</li> <li>・購入時の産地の意識</li> <li>・食品ロスの認知度</li> </ul> </li> <li>○農業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的機能の認知度</li> <li>・市の農業の課題</li> <li>・課題に必要な施策</li> </ul> </li> <li>○交流について <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育講座等の参加状況</li> <li>・農業体験等の実施経験</li> </ul> </li> <li>○農地や農村との関わり <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の所有状況</li> <li>・農地の減少傾向の評価</li> <li>・今後の関わりの意向</li> <li>・交流等への参加意向</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt;全21問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○世帯及び農業経営の現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯区分</li> <li>・農業従事者の年齢構成</li> <li>・耕作農地・所有農地面積</li> <li>・耕作作目</li> <li>・農畜産物の販売方法・販売金額</li> <li>・経営上重視すること</li> </ul> </li> <li>○今後の農業経営について <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の農業経営の意向</li> <li>・経営上の問題点</li> <li>・販路の変更・拡大の希望</li> <li>・スマート農業等の導入意向</li> <li>・後継者の有無</li> <li>・担い手確保に必要な取組</li> <li>・農福連携の意向</li> </ul> </li> <li>○安城市の農業振興について <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地の減少傾向の評価</li> <li>・農業継続に必要な支援</li> </ul> </li> </ul>	<p>&lt;全27問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○食生活について <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活で気になる点</li> <li>・朝食の摂取状況</li> <li>・一週間の食生活</li> <li>・起床時間・就寝時間</li> <li>・食事の時間の楽しさ</li> <li>・食事のあいさつの実施</li> </ul> </li> <li>○食育について <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育への関心</li> <li>・家で学んだ食事マナー</li> </ul> </li> <li>○農業について <ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業・農業体験の実施状況と今後の意向</li> <li>・地産地消の認知度</li> <li>・市の特産品の認知度</li> </ul> </li> <li>○環境について <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの認知度</li> </ul> </li> <li>○郷土料理について <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理の認知度</li> </ul> </li> <li>○給食について <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食の時間の楽しさ</li> <li>・給食を残す状況</li> <li>・給食の地産の認知度</li> </ul> </li> </ul>

## 2 調査結果の概要

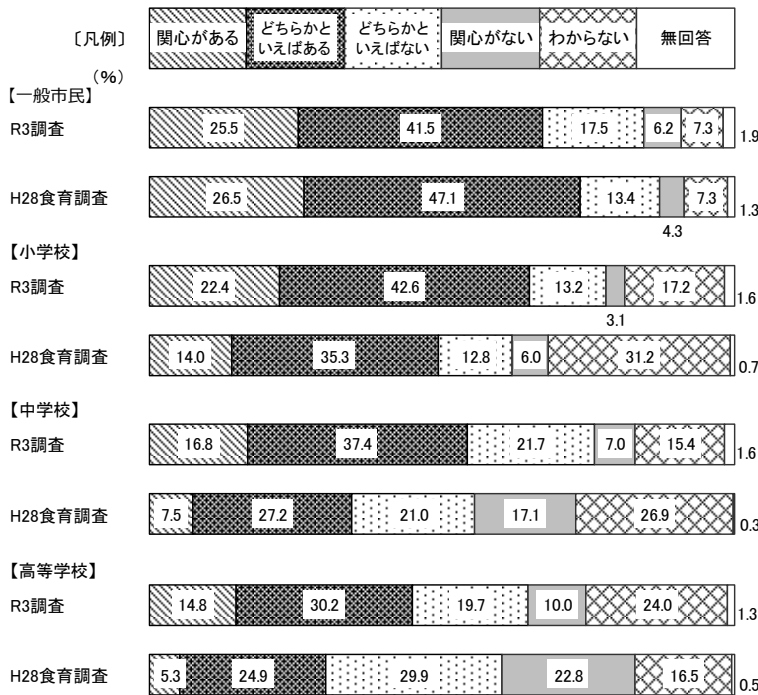
- 調査結果からわかる市民、農業者の意識や取り組み状況の主な特徴は以下のとおりです。（※見出しの【 】は調査種別を示しています。）

<食育への関心> 【一般市民】【小中高】

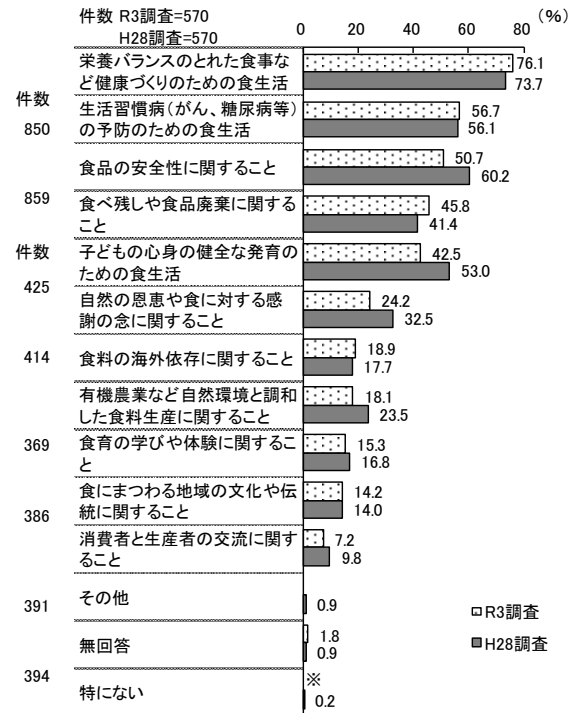
### 食育に関心がある人は 67%、特に「健康づくりのための食生活」「生活習慣病予防のための食生活」を重視

- 市民の食育への関心度は67%で、3人のうち2人が関心を持っています。その内容としては「栄養バランスのとれた食事など健康づくりのための食生活」「生活習慣病の予防のための食生活」が多くあげられており、栄養と疾病予防への関心が高いことがわかります。また、児童・生徒の食育への関心度は、小学生65%、中学生54%、高校生45%と、学年が上がるほど低くなっています。

食育への関心度



食育について関心があること  
【一般市民】



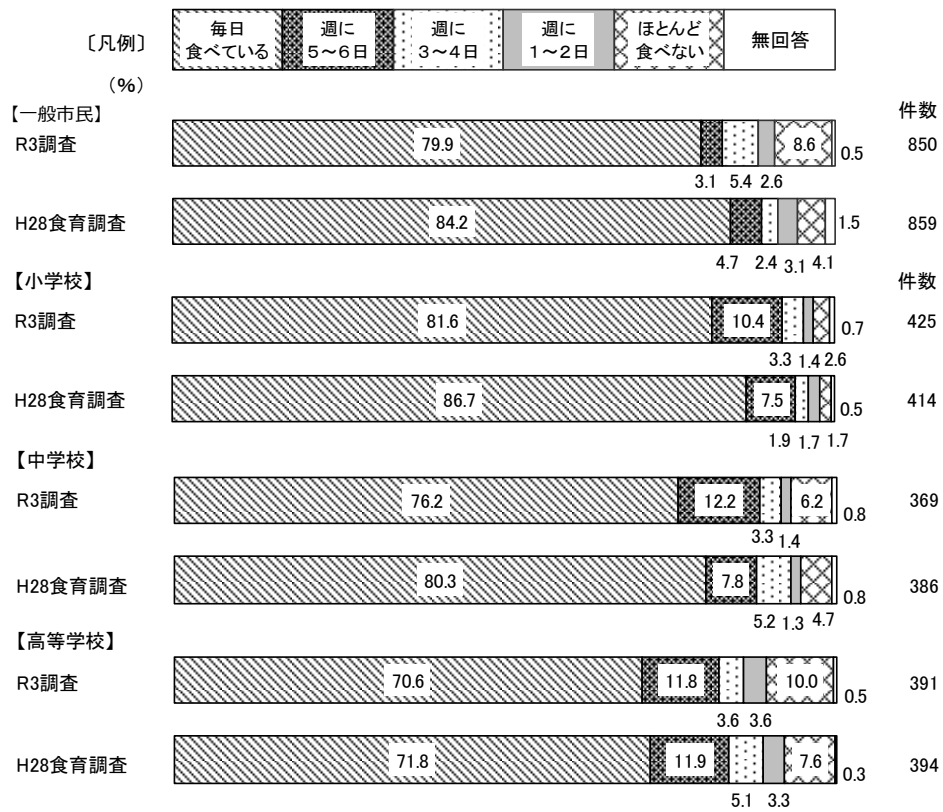
※「特になし」はH28調査のみ

<朝食を食べる頻度> 【一般市民】【小中高】

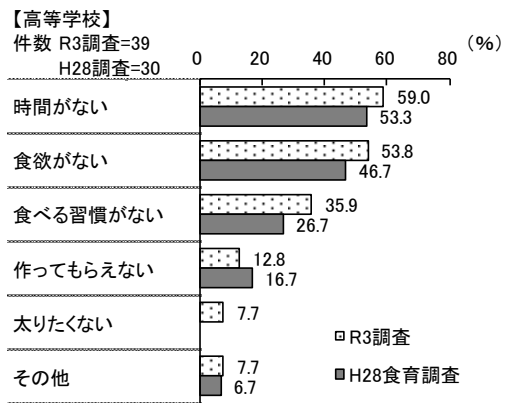
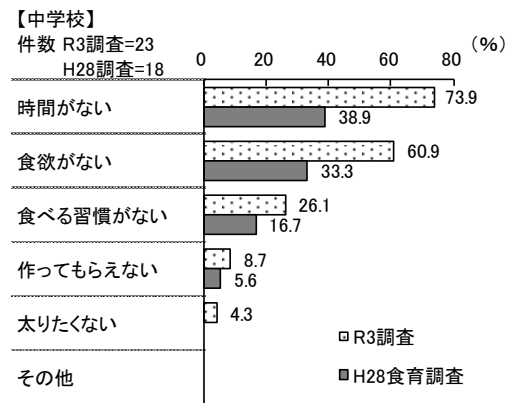
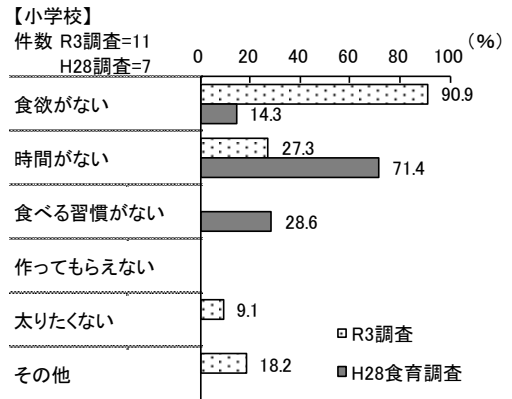
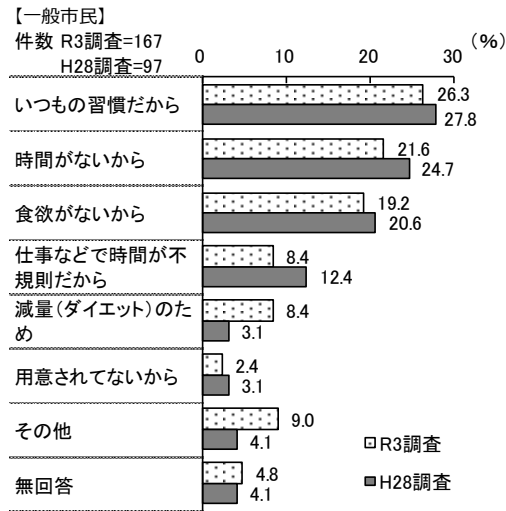
**朝食の欠食がみられ、原因に生活習慣との関連が考えられる**

- 朝食をほとんど食べない人が、小学生 2.6%、中学生 6.2%、高校生 10.0%、市民 8.6%と一定の割合で見られます。食べない理由として、中学生・高校生で「時間がない」、市民で「いつもの習慣だから」が最も多くあげられており、体調や減量意向等ではなく生活習慣による欠食が多いことが特徴です。就寝時間の遅れ等が朝食の欠食につながっている可能性も考えられることから、健康的な生活習慣を周知し、改善を呼びかけていく必要があります。

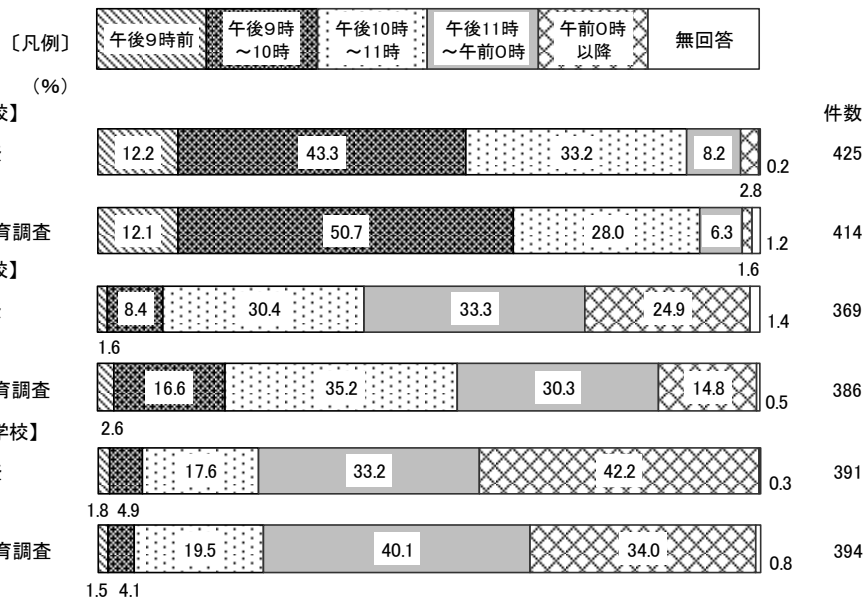
朝食を食べる頻度



## 朝食を食べない理由



## 就寝時間【小中高】



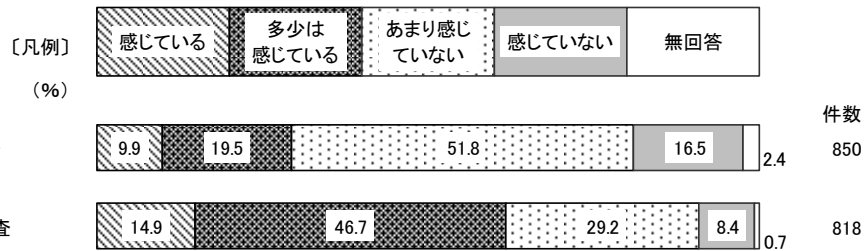
<食品の安全性に対する意識> 【一般市民】

**国産食品の安全性への信頼度は高いが、購入時の地元産への意識は低い**

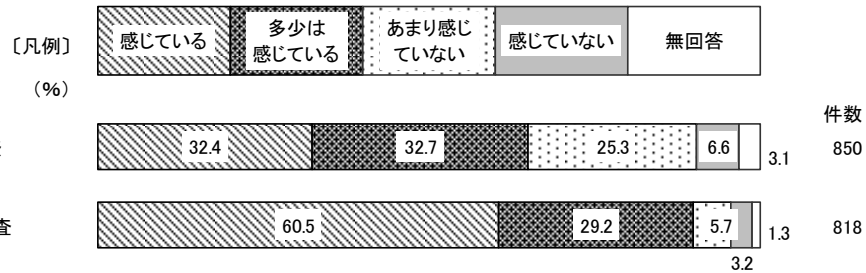
- 食品の安全性について、国産品に不安を感じる人は29%、輸入品に不安を感じる人は65%となっており、国産品への信頼度が高くなっています。農産物等購入の際の産地の意識についても、国産を意識する人が6割以上と高くなっていますが、一方、愛知県産を意識する人は2割弱、安城市産を意識する人は1割強と、地元産への意識は低い状況となっています。

食品の安全性に対する不安の状況

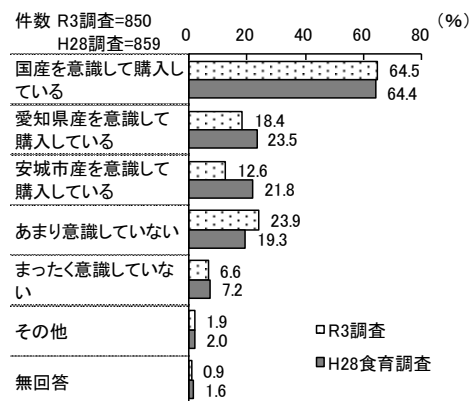
①国産品



②輸入品



産地を意識した農産物等購入の状況

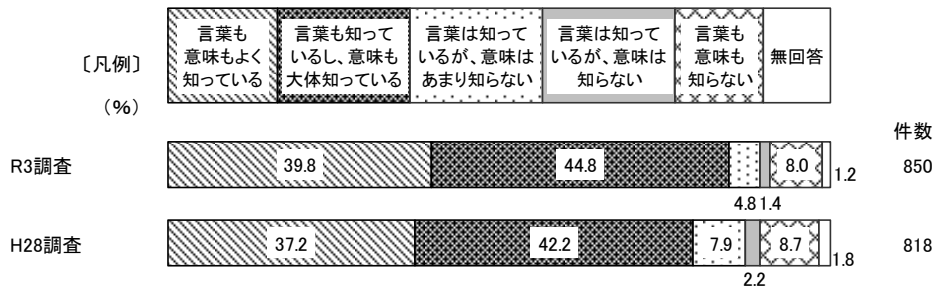


＜地産地消の認知度＞【一般市民】

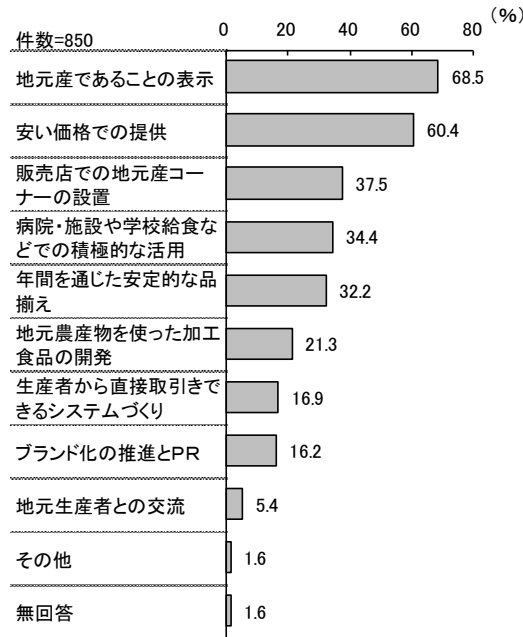
**地産地消の認知度は8割以上と高く、推進には「地元産であることの表示」「安い価格での提供」が必要**

- 地産地消の認知度は85%と高くなっており、市民の多くに言葉と意味が知られるところとなっています。地産地消の推進に必要なこととしては「地元産であることの表示」「安い価格での提供」が多くあげられており、地元産であると識別可能な食品を安く買えることが求められていることがわかります。

地産地消の認知度



地産地消の推進に必要なこと



<農作業や農業体験の状況> 【一般市民】【小中高】

**小中高生は学校等での農業体験が多いが、市民の過半数が未経験**

- 農作業・農業体験について、小中高生で野菜づくりの経験がある人は約9割いるなど、過半数の人が米・野菜・果物づくりの経験があり、主に学校が重要な体験の場となっています。また、今後も体験したい人の割合が体験したくない人を概ね大きく上回っています。一方、市民で農作業や農業体験をしたことがない人は53%と半数を超えており、学校の場合以外にもこうした体験の機会を継続的に提供することが重要であると考えられます。

農作業・農業体験の実施経験の有無と今後の実施意向 【小中高】

(単位：％、n = 小学校 425、中学校 369、高等学校 391)

①米づくり	【経験の有無】	【今後の実施意向】		
	ある	したい	どちらともいえない	したくない
小学校	83.5	44.0	35.5	8.5
中学校	59.6	15.4	40.7	17.3
高等学校	68.0	17.9	46.3	15.6

②野菜づくり	【経験の有無】	【今後の実施意向】		
	ある	したい	どちらともいえない	したくない
小学校	87.5	53.4	28.7	6.4
中学校	87.3	30.4	43.4	14.1
高等学校	93.6	35.8	45.5	9.2

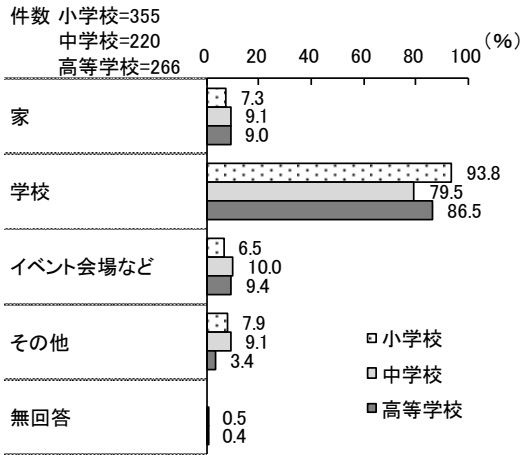
③果物づくり	【経験の有無】	【今後の実施意向】		
	ある	したい	どちらともいえない	したくない
小学校	69.4	56.7	16.2	4.0
中学校	55.6	36.3	28.7	5.1
高等学校	60.6	36.3	32.5	5.4

④加工食品 づくり	【経験の有無】	【今後の実施意向】		
	ある	したい	どちらともいえない	したくない
小学校	51.8	48.9	18.1	4.2
中学校	45.8	35.2	25.2	6.5
高等学校	49.1	39.4	27.1	4.3

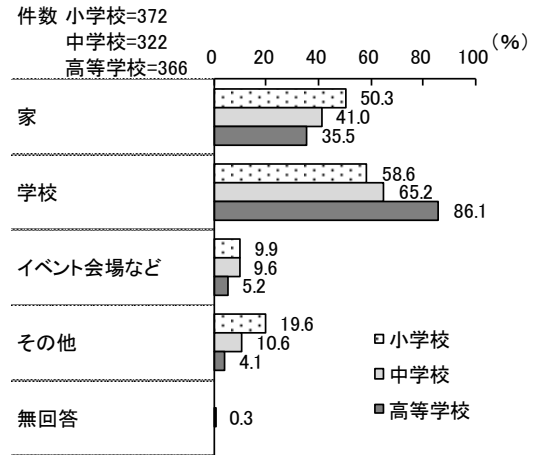


農作業・農業体験を実施した場所【小中高】

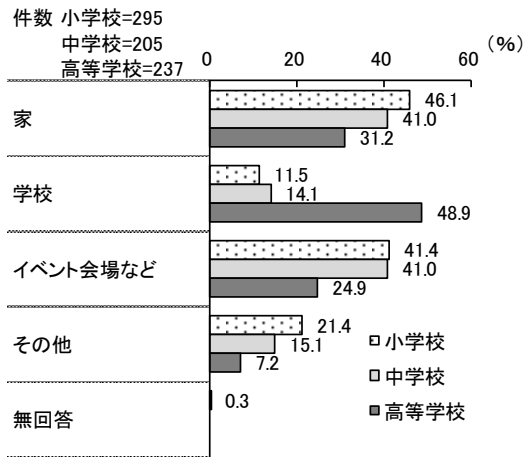
①米づくり



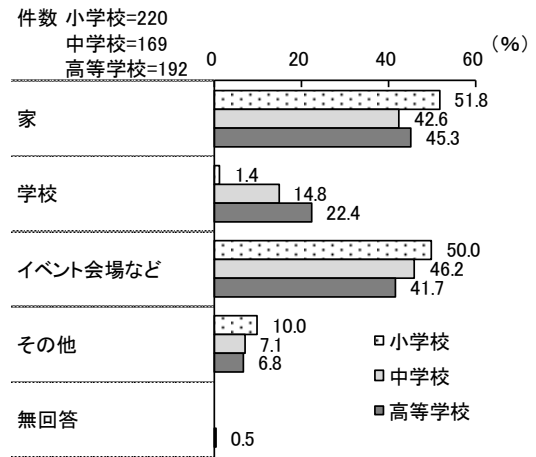
②野菜づくり



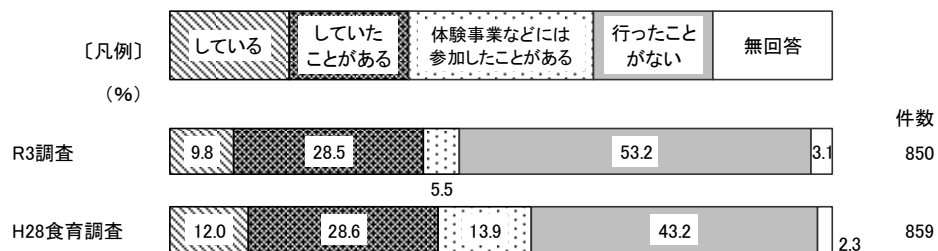
③果物づくり



④加工食品づくり



農作業や農業体験の実施状況【一般市民】

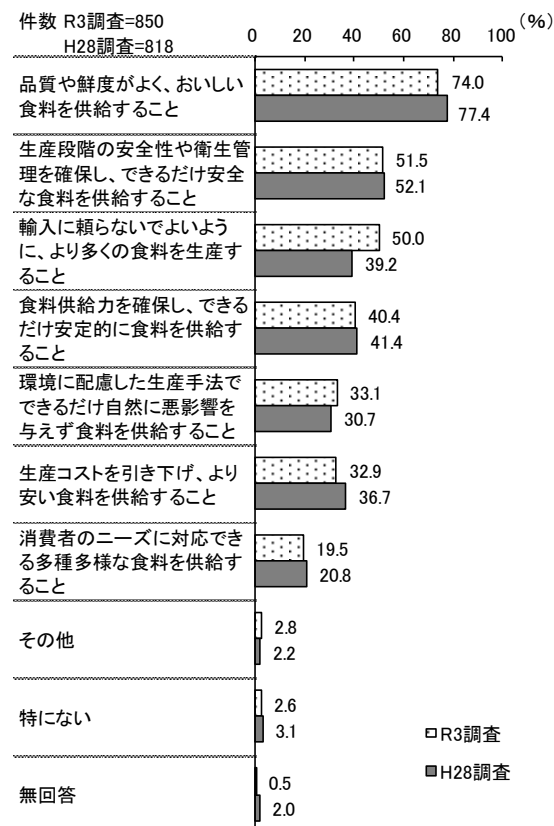


<農業に期待すること> 【一般市民】

**農業に期待することは「品質がよくおいしい食料」「安全な食料」の供給**

- 農業に期待することとしては、「品質や鮮度がよく、おいしい食料を供給すること」が最も多くあげられ、次いで「生産段階の安全性や衛生管理を確保し、できるだけ安全な食料を供給すること」が多くなっており、食の安全性を確保した、良質な食料の提供に期待が大きいことがわかります。

農業に期待すること

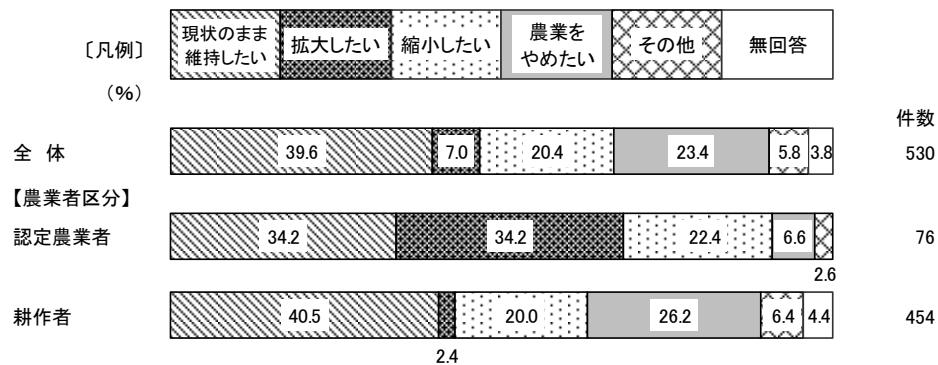


<経営の拡大・縮小意向> 【農業者】

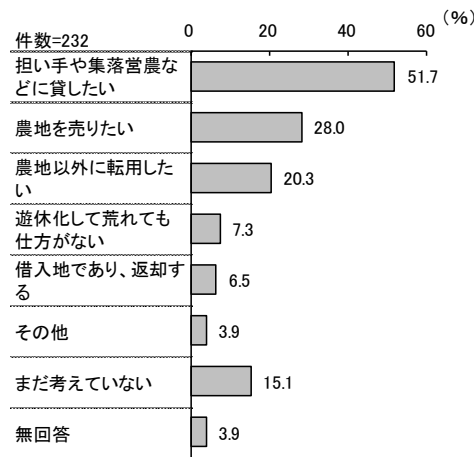
**農業経営の縮小や離農意向は、認定農業者 29%、耕作者 46%**

- 農業経営の拡大・縮小意向について、認定農業者以外の農業者（耕作者）では「縮小したい・やめたい」が 46%で「維持・拡大したい」（43%）を上回っています。また、認定農業者においても「維持・拡大したい」（68%）が過半数を占めるものの「縮小したい・やめたい」も 29%と多くなっています。耕作しなくなる農地は「担い手や集落営農などに貸したい」との意見が多くなっており、意欲のある担い手への農地の集中が重要です。

農業経営の拡大・縮小の意向



耕作しなくなる農地の措置

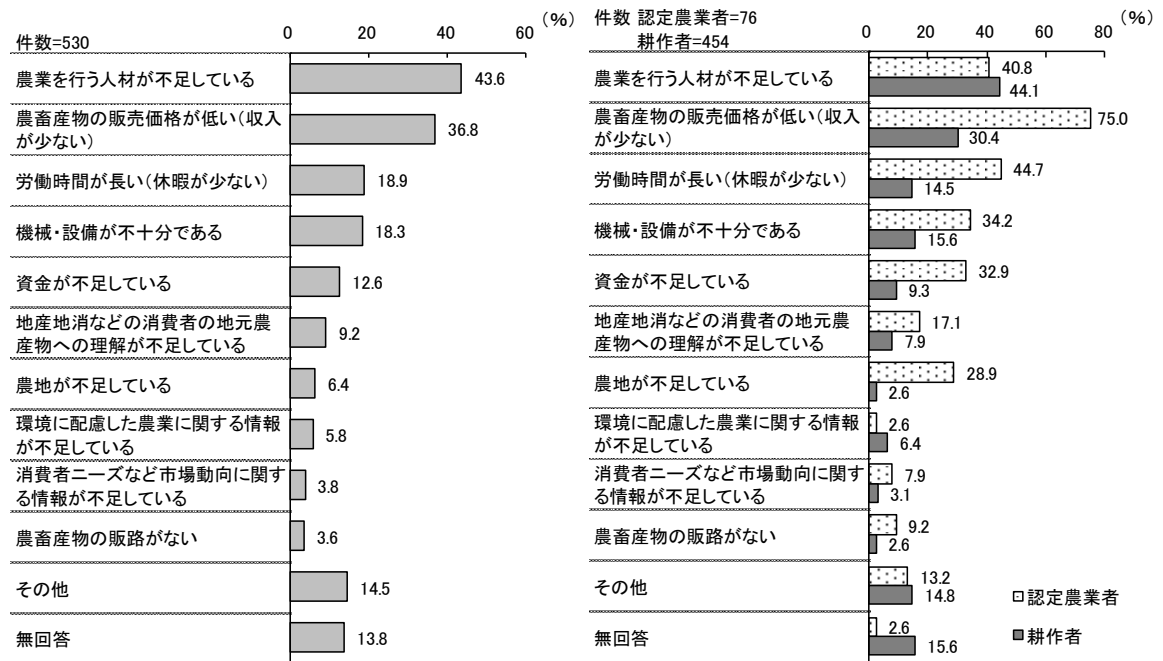


<経営の課題、経営継続に必要な支援策> 【農業者】

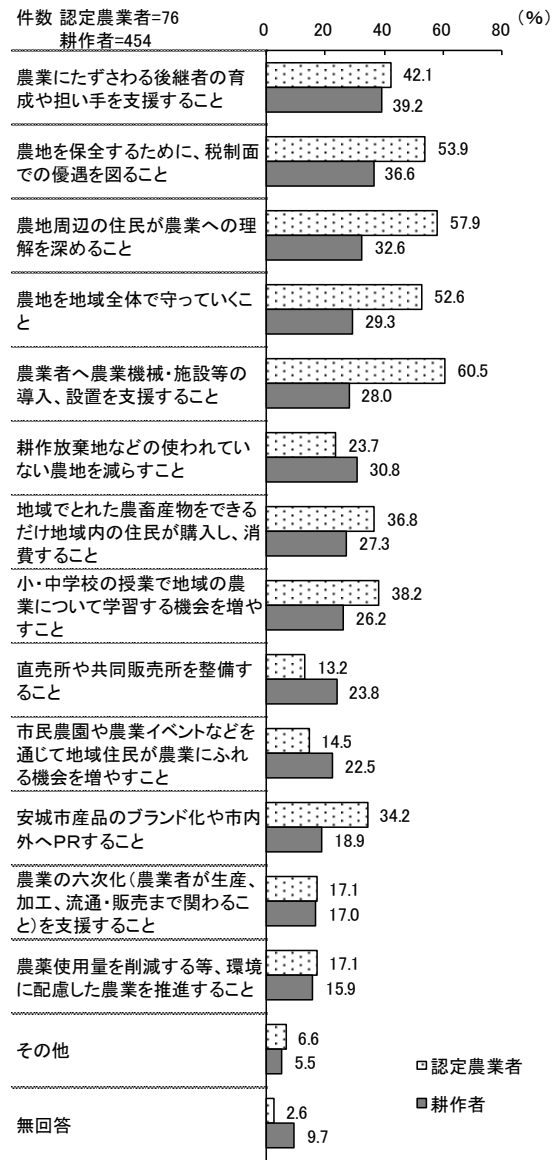
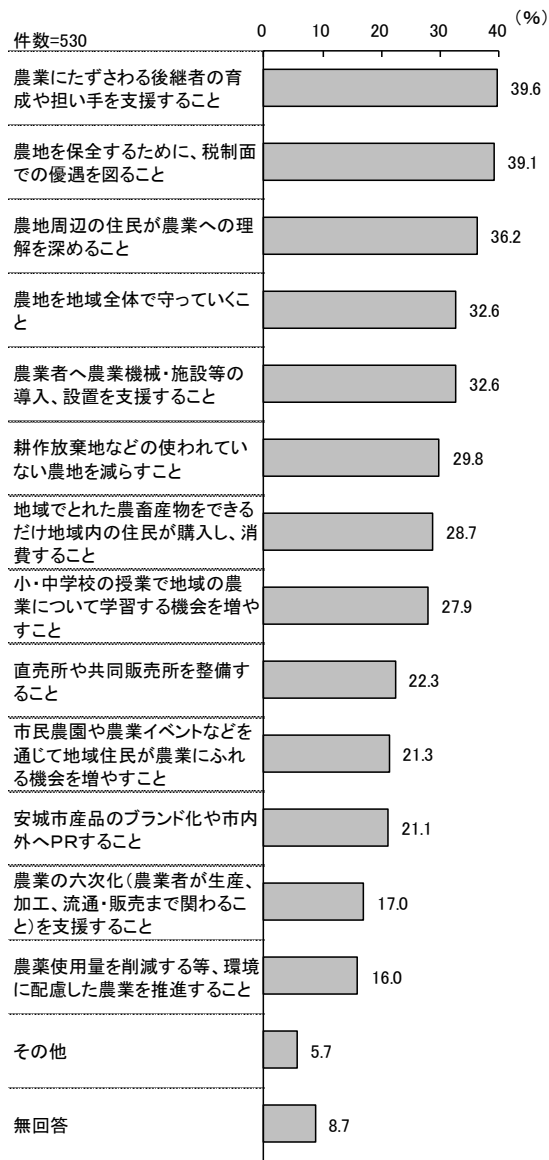
**農業経営上の課題は「人材不足」「農畜産物の販売価格の低さ」、継続に必要な支援策は「後継者の育成や担い手の支援」「農地周辺の住民が農業への理解を深めること」**

- 農業者が経営上感じている問題としては「農業を行う人材が不足している」「農畜産物の販売価格が低い（収入が少ない）」が多くあげられ、さらに、認定農業者では「労働時間が長い（休暇が少ない）」が多くあげられており、人材不足の解消と農業収入の増加、労働環境の改善が大きな課題となっています。
- 農業継続に必要な支援策としては「農業にたずさわる後継者の育成や担い手を支援すること」「農地周辺の住民が農業への理解を深めること」が多くあげられており、人材不足への支援に加え、農業への理解促進も求められています。

農業経営上で感じている問題



### 市での農業継続に必要な支援策

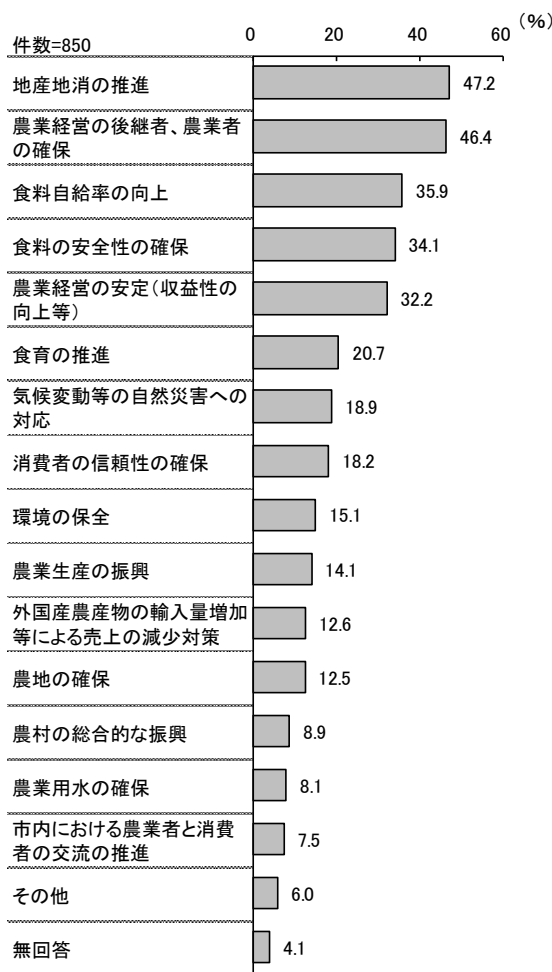


<農業の課題、必要な支援策> 【一般市民】

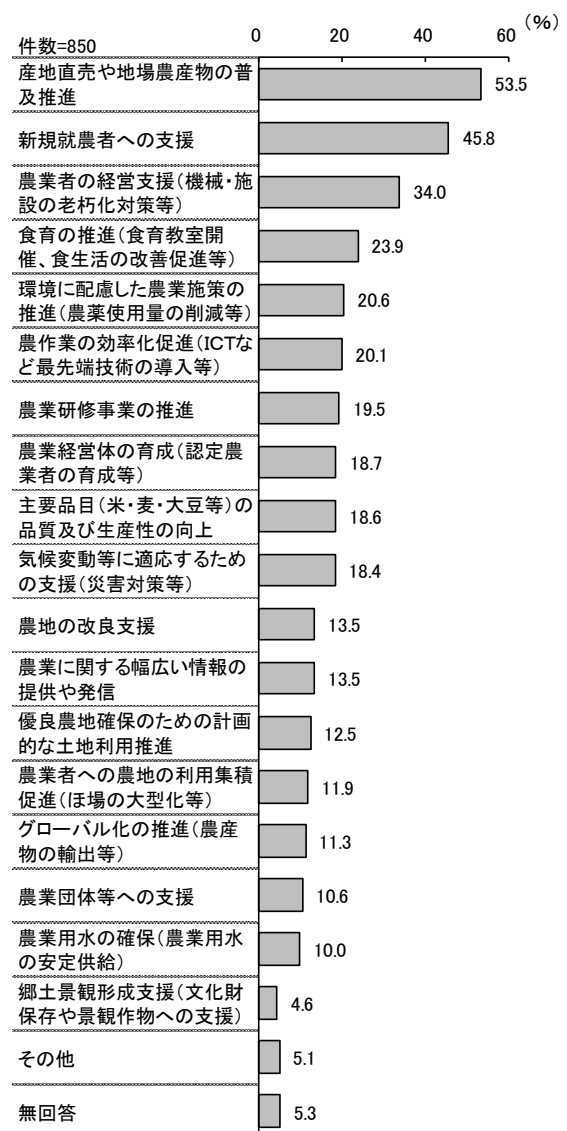
**市の農業の課題は「地産地消の推進」「農業経営の後継者、農業者の確保」、必要な施策は「産地直売や地場農産物の普及推進」「新規就農者への支援」**

- 市民が感じている安城市の農業の課題としては「地産地消の推進」「農業経営の後継者、農業者の確保」が多くあげられています。
- 課題の対策に必要な施策としては「産地直売や地場農産物の普及推進」「新規就農者への支援」が多くあげられており、地産地消の推進や農業経営に対する施策が期待されています。

市の農業の課題



市の農業の課題の対策に必要な施策



＜農地減少への考え＞ 【一般市民】 【農業者】

**農地保全に対する市民・農業者の高い意向**

- 安城市の農地が減少傾向にあることについて、市民、農業者ともに「公共の利益に資する目的であればやむを得ない」が最も多くあげられています。また、目的を問わず積極的に開発するべき」と回答したのは市民 3.5%、農業者 10.9%にとどまっており、農地保全に対する市民・農業者の高い意向が伺えます。

市の農地の減少傾向に対する考え

